

甲状腺の病気について

今回は日本甲状腺学会・日本内分泌学会・日本糖尿病学会専門医の松浦文三院長に「甲状腺の病気」について伺いました。



▲松浦 文三 院長

甲状腺は、甲状腺ホルモンという人間が生きていくために欠かせない物質を作っています。これは、食べた栄養素が骨や筋肉の維持・増殖に使われるための代謝に必要であり、また体温を維持するための熱産生に必要です。さらに運動に応じて脈拍を増やしたり呼吸を速くしたりする交感神経という神経の活動を調節するために必要です。

そのため、甲状腺の病気で甲状腺ホルモンが増えすぎると、安静にしているでも脈拍が多かったり、汗をよくかいたり、手が振るえたり、イライラしたりといった交感神経が興奮した状態になり、さらに微熱が出たり、食欲が旺盛な割に体重が減少したりといった症状が出ます。バセドウ病が代表的な病気です。逆に甲状腺ホルモンが足りなくなると、寒がり、皮膚のかさつき、むくみなどの症状がでます。慢性甲状腺炎（橋本病）が代表的な病気です。

バセドウ病は女性が男性の約3.4倍と多く、人口の約1%に見られます。橋本病は女性が男性の約10倍と多く、人口の約20%に見られますが、治療の必要な方は橋本病の10%程度です。

甲状腺の腫瘍は甲状腺エコー検査者の約20%に見られます。エコー検査で悪性が疑われた場合は、エコーガイド下で細胞の検査をすると確定診断ができます。

甲状腺が気になる方は早めに専門医療機関を受診してください。



社会福祉法人 済生会今治第二病院

今治市北日吉町1丁目7番43号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/site/saiseikai-imabaridai/>

☎0898-23-0100

